

やり直しのできる社会を！

2023.7.9

新宿連絡会NEWS

VOL. 87

新宿野宿労働者の生活・就労保障を求める連絡会議
〒169-0075東京都新宿区高田馬場2-6-10
関ビル106号 NPO新宿気付
TEL.03-6826-7802 FAX.03-5273-6895
<http://www.tokyohomeless.com>

夏 になると

笠井 和明

「高田馬場駅」から、西武新宿線で「拝島駅」へ。
所要時間は45分程度。「拝島駅」の中にあるそば屋にて昼食。

「拝島駅」からJR八高線にて「小宮駅」まで。本数は少ないが一駅なので、所要は10分程度。

この地は父が生まれ育った地。
その父が他界した。

ホームレス支援をしている不屈きものの息子を持つとうとは露知らず、この地で生まれた父は、青年期に戦争となり、当時の人々は皆そうであったのであろうが、それに大きく影響され、育った。昭和5年生まれ。農家の次男坊。

戦争の最中、多摩川の向こう岸にある高等小学校に通い、14歳の春、そのまま戦闘機を作る会社に職人見習いで入社。

遺品の中に「厚生年金の記録」や「職務経歴書」と云うものが大事にしまっており、それによると昭和19年4月6日に工場に入社、資格を失ったのは昭和20年10月26日。おそらく幾度も続いた「立川空襲」によって焼かれ、アメリカ軍の占領によって、近辺の工場もあらかじめ閉鎖されたのだろう。

当時、立川の北、拝島、昭島近辺は軍需産業、航空機産業のメッカであり、戦後米軍に接種され、その後「返還」、今は「昭和記念公園」に整備された「立川陸軍飛行場」や、拝島の北の福生には「多摩陸軍飛行場」（後の「横田基地」）もあり、B29を落とすため幾多の戦闘機がそこから飛び立った。そして、それを若き工場労働者であった父も旗を振って見送り、空襲の度にバケツリレーをしていたのであろう。

戦後の空白期に父がなにをしていたかと云えば、立川の英語学校に1年、通っていたようである。その変わり

身の早さは何だか頼もしい。そして、その後、古巣の飛行機会社が再開すると、そこへ復帰。それから、ゼロ戦で有名な田無の「中島飛行機」の跡地に出来た、これまた飛行機関連の工場に転じ、自衛隊の戦闘機作りやら、ロケット開発やら、「下町ロケット」ではないが、そんな技術者として、その産業に関わることになり、ひたすら働き、定年後は、小さな庭に畑を作り、のんびりとした老後を送ることが出来た。

「小宮駅」から少し歩くと、多摩川と八高線の鉄橋が見える。

戦後まもなくの頃、その鉄橋で列車脱線の重大事故があ



り、地元の若い衆であった父は、救助やら何やらに奮闘したと、そんな話しは聞いたことがあったが、戦争のことは何も語らなかった。

語ったからと、どうにかなるものでもないと思っていたからかも知れない。

ウクライナの戦争は病室のテレビで見っていた。何も語ることなく、只、じっと見ていた。

まるで「ホームレス支援」には理解のかけらもなかった父であるが、「良いことではないと思うが、だからと言って、悪いことではないわなあ」と訳の分からぬことを語っていたことがあった。

ならば、少しでも供養になるかも知れぬと、高田馬場のシャワーサービスで下着が少なくなったと聞けば、実家の引き出しから下着類を引っ張り出し、靴下がないと聞けば、靴下を探し出しと、遺品は衣類提供などに使わさせてもらっている。

これまでも、「旦那さんが亡くなった」「父が亡くなった」「息子が亡くなった」。その遺品を役立ててもらいたいと衣類や物品の寄付を多くの方々から頂いて来た。「遺品整理」なんていう仕事も巷では市民権を得るようにもなった。遺品は何かと溜まる。近ごろは「終活」をする高齢者の方々も多くなったが、それでも捨てきれずに取っておくものは、そこそこ多く、遺族はその山を見ながら、ため息をつく。

自分もその当事者になってみると、気持ちが良く分かる。遺品をどうしようかと云うのは、ごみ箱に「ポイ」

とも簡単にはいかないもので、悩みどころである。使ってもらった方が、一回着ただけで捨てられたとしても、そちらの方が何だか救われるような気がする。

「供養」と云うものは、気持ちの問題だけに難しいが、そう思うようにした。

父も苦笑いをしているかも、知れぬ。

私事の話になってしまったが、私たちのホームレスの仲間と共に進める運動の原点は、先人達の苦勞、戦後のこの国を、懸命に復興させた労働者達の汗と力、それをリスペクトするからこそ、労働者の使い捨ては許せなかった。そんな思いからである。仕事がないからとリストラシ、住居も追い立て、路上生活を安易にさせる社会、そして、それを放置し、揚げ句の果てには路上からも追い立てる社会が許せなかった。

先の戦争と、復興、高度経済成長期、そこで働き続けて来た人々の列から「路上生活者」と呼ばれる人々は生まれて来た。

建築労働で全国を渡り歩き、港湾労働では港で汗をかき、農家では稼げないので出稼ぎに来て、寄せ場で日雇仕事を続け、呑み屋をやったり、自営や都市雑業に従事したり、そうやって懸命にそして必死で働いて来た人々の中から、「運」や「巡り合わせ」が悪いだけで路上生活者になる。

そして、なったらそこで「ジ・エンド」。救いの手すらないと云うのは、それはあまりにもである。終いには「野垂れ死」。「おかげさまで人が死にました!」であった。

だから、当事者たちをまとめ、私たちは単なる「救済」ではない共助の「運動」を作った。

「立川基地」の北側は旧砂川町である。そこに新型ジェット機が飛ぶとか飛ばないとかで、米軍の基地拡張計画が出て、地元の地主や議員、住民などが猛反対。そこへ学生も加わり、かの有名な「砂川闘争」と云うものが起こり、そんなこんなで米軍も拡張計画を断念して、今は「昭和記念公園」である。

労働運動ではなく住民運動、中でも地主による運動は社会運動史の中では特筆すべきもので、このたたかいが、後の「三里塚闘争」に影響を及ぼし、国策と真っ向からたたかう農民と学生運動が、普通に考えれば立場が違うのであるが、共に学びあいながら共闘していくと云う、これまた特筆すべき運動が展開され、現在も続いている。

本来、立ち上がらないと思われている人々が立ち上がると、既成の価値観にこだわる人々や、それを前提にしている多数派や、時には「左翼」からも批判される。

私たちの運動もそうであった。



立場が違う人々が何らかの価値観を共有しながら共闘を続けている。そんな歴史を俯瞰してみると、日雇い労働者の運動、「日雇全協」や「山谷争議団」もまた同じである。

新宿連絡会もまた同様。日雇労働者がいて、野宿労働者がいて、その支持があってこそ「争議団」や「連絡会」は成り立っていた。

日雇労働者であることを肯定し、「何が悪い」と堂々と語った「山谷争議団」。

その歴史もまた、砂川や三里塚と同じく、寄せ場や路上やら、その当事者が逆境のなかでも生きる姿に感銘し、リスペクトした当時の学生や若い活動家がそこに加わり、作りだしたものである。

戦後の東京の歴史や、寄せ場の歴史、労働者の歴史、そして、路上生活者の歴史の上は、何かがつながり、なんとなく、何かが継承されて来たのであろう。

それらに関わった人々の生き方がどんなに凡庸であろうと、どんなに苛烈であろうと、どんなに惨いものであろうと、そうやって生き続けて来た人々を認め、尊重し、尊敬したいと思うのである。

父の死をきっかけに、色々なことがつながっていることに気がついた。

「平町」のバス停からバスに乗り、会津藩と共にたたかった幕末の志士で有名な「日野駅」へ。所要時間20分。そこからJR中央線に乗り、次の宿場町である新宿に戻る。およそ30分ぐらい。

.....

東京も梅雨になった。激しい雨の中、仲間達は逃げ場を求めてあっち行ったり、来たり。

梅雨が明ければ、明けたで、都会の熱中地獄で、涼を求めて行ったり来たり。

東京都による1月の「路上生活者概数調査」が今年も発表された。

大方の予想通り、順調に減じている。

「コロナ渦」の騒動、喧騒はどうしたことであろうか。路上生活の数と、世の困窮の度合いと云うか、その深度は、直接リンクはしないものである。

路上の仲間は「長期化、高齢化」の言葉で修練され、それに加え「減少化」が、全国的な流れである。

路上生活者ではないホームレスの存在（これは昔からその「恐れのある」人々として想定されていた

のであるが）、が路上生活者の減少と同時に注目される（と、云うか「話題性」を作っているというか）ようになって来た。

これらの人々を総じて「生活困窮者」（これは法律用語でもあるが）と呼ぶそうだが、安定した住居がない人は「ホームレス」（こちらも一応時限立法の法律用語でもあるが）であるが、こちらは使い回され、「差別用語化」しているのでは、この呼称を嫌がる人もいるのだろう。

しかし、だからと云って「生活困窮者」が一般的な呼称かと云えば首を傾げたくなる。年齢、性別不詳で、対象が広すぎる。誰のことを言っているのかまるで判らない。「処遇困難者」と云う言葉のよう、どこか上から目線の感もする。「お前に言われたくない！」と叫ばれそうな呼称である。

まあ、それはともかくここら辺の人々は稼働年齢層が多い。バブル崩壊後のホームレス問題の発生、団塊世代のリストラ等からすると、その次の世代である。

気質もまた違って来る。

理知的であればと、誰もが「大学生」になってしまうような「学歴社会」の世の中、頭でっかちが多く、権利主張のようだけれど、よくよく聴いてみると、依存しているとしか思えない人もまた結構いる。

まあ、そんな傾向はどの時代でもあって「今の若者



は！」と語られ続けるのが「若者」なのであるが、それでも、生まれた環境やら、その時々々の社会や文化の影響からは逆らえない。今の人々の「気風」や「気質」、今の「下層」がどうなっているのかは、今の人でなければ解明できないのも世の常。

それでもこれらの人々は、現実世界で必死に働き、生きている。シェルターに泊り、「オーバーイーツ」でちゃりんこ乗って、汗水流したり、都会の飲食業を転々としている者、飯場や寮を転々としている者、「家」がなくても、「居場所」があればそれで良い。「不安定就労」なんて、そもそもが当たり前。なので正社員でないことが困っている訳ではない。

これの人々が路上生活をしているとなれば、それは「補足」や「発見」されやすいし、接触もしやすいし、実態もそれなりに把握しやすい。

けれど、路上生活をしていない「生活困窮者」は、本人や家族の訴えがない限り判りにくい。全体の実態は不明だし、そもそも「定住」と云う生き方をしていないのだから、どこに居るのかも不明であるし、そんなものを興味本位で探し当てるのも「野暮」と云うものである。それぞれがそれぞれで頑張っているのであるから。

「コロナ渦」と云えば「定額給付金」の問題で、色々動いたのであるが、住所、住民票の問題もまた複雑である。住所が「職権抹消」され、「住所不定」状態になると、それをどこかで復活させない限り住民サービスは基本的には受けられない。なので、「住所を移せ」今流行りの「マイナンバーカードを作れ」となる。

けれどそれを明確に拒否する人々も多い。面倒くさいと言うのもあるのだろうが、家族や借金取りなどから「逃がっている」人もそんなに珍しくはない。こうなると逃げることを支援するか、捕まることを支援するのかわと、なかなか支援の側の判断も大変でもある。もちろんフォーマルな解決策はあるのであるが、それがあつたとしても乗ってこないのは、路上の人々が「生活保護」があるのに、それを使おうとしないのと同じである。だからと言って「非難」したとしてもどうしようもない。

「搜索願」（今は「行方不明者届」と云うらしいが）を出されている人はまだ良い。「搜索願」すら出されず、定着もせず、社会との関係を絶とうとしている人に対し、役所は何も言えないし、せいぜい住民登録を「職権抹消」するぐらい。

そう云う暮らしをしていると、それが普通になり、それに固執し、離れなれなくなる。なかなか一筋縄ではない難しい問題である。

私たちが呼び続けて来た「先輩」と云う言葉は、世代が変わったことで、ほとんど死後になってしまった。なので「後輩」とでも呼ぼうか、そんな年下の「宿」のな

い仲間には、とにかく「頑張れよ」と励ますしかない。尊厳は自分で作りな、あんまり一般の大人とか「常識」を信じるな、リスペクトすべき相手は自分で探せ。道なき道でもそこを迷わず、否、迷ったとしても愚直に行きさせずれば、きっと何かにつかるから。

「シェルター」や「宿泊施設」なんてのも一応作って、仕事もまた作ったりして来たが、そんな古い制度や古い支援なんてのは気の向く時に使えばよい。

こんな都市の矛盾や闇に首を突っ込むのは、
「良いことではないと思うが、だからと言って悪いことではないわなあ」
である。

……………

まあ、連絡会は、そもそも、バブル崩壊後の古い路上の仲間の「共助」や「支持」や「激励」で成り立っているので、時代が変わったとしても、あまり課題を広げず、見栄を張らず、地道にコツコツ、今まだ残る路上の仲間や、路上にゆかりのある仲間と共に、路上からのみ社会を見渡す場所に居続けるだろう。

お気楽な「学者」になるつもりも、「評論家」になるつもりもない。気の向くまま、私たちが感じたまま、仲間や仲間に通じる人々に語り続けるだけである。

「お天道様に背中を向けて歩く 馬鹿な人間」（鶴田浩二の「傷だらけの人生」）がたくさん居て、そんな街の中でそれを許されてしまう「路上生活者」も、何故だか一定の水準でずっと居て、そこからは何も生み出されはしないかも知れぬし、「自立」や「再起」なんてのは嘘っぱちかも知れないが、でもそう云う「夢」や「希望」のようなものを持ち、信じたり、裏切られたりしながら、どうにかこうにか生きている。

生きていれば、声も出せるし、笑うことも出来る、怒ることも出来る。仲間もまた出来る。ボランティアなんてそんな大げさなものではなく、助けあうことが当たり前で、もちつもたれつみんな生きて行く。

そんな肩ひじ張らないところが、新宿ならでは。

大きな声を出さなくとも、困った時に新宿福祉事務所だけは何とかしてくれるし、仲間も何とかしてくれる。

「修羅の道」でも「地獄道」でも、「自業自得」であろうと「負け組」であろうとも、社会から蔑まれつづけていても、俺らは、どこにでも歩いて行くことは出来るし、どこでも寝ることも出来る。

そして、この街で生き続けることが出来る。

(了)

巡回 おにパト報告 3-6 月

2月小田急本店解体工事が始まり、3月には東京マラソンが通常規模で開会され、4月には東急歌舞伎町タワーが開業と、新宿駅周辺は各種イベントと再開発の波に吞まれています。と、なると「寝場所」「居所」は変更を余儀なくされ、東口、大ガード界隈は制限が強化。たむろす場所も少なくなりました。とは云え、新宿の基本的な仲間の数はそんなには変わらない。みんなどこかへ上手に移動しているような、いないような。そんな新宿であるとか、周辺地域を夜な夜な巡回、医薬品を提供したり、食料品を提供したり、誰に言われるまでもなく、いつものよう、ゆっくり、のんびりと活動を続けています。

おにぎり巡回パトロール 3-6月期実績

		都庁	西	公園	東	小計		周辺部	戸山地区	合計	
						(前年同月比)				(前年同月比)	
2023	3月5日	40	24	20	42	126					
	3月12日	36	30	14	34	114					
	3月19日	42	32	17	39	130					
	3月26日	29	30	22	42	123					
	3月平均	37	29	18	39	123	(+6)	13	7	143	(+9)
	4月2日	40	25	21	30	116					
	4月9日	44	19	23	31	117					
	4月16日	38	23	22	31	114					
	4月23日	38	20	22	34	114					
	4月30日	43	23	26	41	133					
	4月平均	41	22	23	33	119	(▲8)	12	7	138	(▲4)
	5月7日	33	23	23	34	113					
	5月14日	32	25	26	37	120					
	5月21日	47	24	24	33	128					
	5月28日	44	19	28	37	128					
	5月平均	39	23	25	35	122	(▲9)	11	8	141	(▲6)
	6月4日	52	32	21	29	134					
	6月11日	33	22	20	30	105					
	6月18日	33	19	22	27	101					
	6月25日	27	21	21	30	99					
6月平均	36	24	21	29	110	(▲15)	9	6	125	(▲13)	
									4ヶ月平均	137	(▲3)

深夜巡回（パトロール/軽食配布、毛布配布(5月まで) 3月～6月期）活動で出会った仲間の数

日時	天候	4号街路	都庁下周辺	西口地下	西口地上	東	大ガード周辺	新南口周辺	深夜計
3/12-13深夜	曇	22	36	43	9	7	0	16	133
3/26-27深夜	雨	21	38	47	8	11	2	18	145
4/9-10深夜	晴	22	36	49	12	1	4	18	142
4/23-24深夜	晴	23	37	40	12	1	0	17	130
5/14-15深夜	雨	24	44	44	8	1	0	15	136
5/28-29深夜	雨	21	35	39	5	0	0	13	113
6/11-12深夜	雨	21	34	60	11	0	0	15	141
6/25-26深夜	曇	22	37	56	13	0	0	15	143
							平均	135名	前年比+3名

農へ往け！ いろりん村 プロジェクト 2023

★NO1 (5月8日～12日まで)

今年も新潟県十日町の山奥の限界集落に茅葺き屋根土壁の建物を大切に守って生活をしている農家さんの所に4人で訪問しました。

その畑で野菜作りをする為、周辺の農家さんと交流して色々アドバイスもらったり、自分達の知識で農作業に係わることで、食の大切や自然を守る意味も判ってくると私は思い、仲間と一緒に自給自足を味わう事で、昔と現在のちがいが見えて感じる事が出来る貴重な時間です。

5月とは言え朝夜はまだまだ寒い事は判っていましたが、雪が少し残っているせいか思った以上に寒く、2名ほどは2日目にカゼを引いてしまったが2日間くらいで治って安心しました。

今年は畑で野菜作りをメインで育てる方向で作業していきます。

まずは肥料をばらまいて土おこしをした後に畦を作って植え付け準備。二日目の夜食は農家さんと一緒にギョウザパーティをして野菜の植え付けのアドバイスをもらい色々お話を聞き、勉強になりました。

三日目は朝から雑草取りや草刈りをしてから植え付け作業になります。さあ何を植える!?「キャベツ苗7株、カボチャ2株 スイカ1株 里芋2株 オクラ2株」の他農家さんから譲っていただいたジャガイモ30個くらい計6種類植え付けました。

意外と体力作業で休み休み作業をして一日でなんとか植え付けが出来ました。一日の作業の後は近くの温泉宿に行き一日の疲れを流す事で次の日にはリセットされてのくりかえしです。

山奥での夜空は天気の良い日は星空がたまらなくてキレイでオヤジ4人で感動しました。

食事に関してはお米は羽釜で毎日火をおこす所から始まります。その為朝4時起きで火を起こしての流れです。

手間はかかりますが昔の時代はこれがあたり前だったんだと思います。



朝食の準備をしていると1人が起き！二人目が起きてとだれが起す訳でもなく自分自身で起きてきてくれます。そしておのずとやる事を色々やってくれて助かります。

最終日は畑作業を2時間ほど、中国野菜の種まきをして前日植え付けした物に水やりをしたりキャベツにトンネルネットを作ったりしました。

畑作業を終えたら部屋そうじをして、帰り支度をして12時くらいに東京に向けて出発する。

田園の大自然の中、自給自足生活で山に入って山菜取りでも勉強しながら収穫して「てんぷら」にしたり、「おにぎり」に使えるような物に関しては自分達で作る。たとえばフキミソを作ったりして楽しかったです。

この場所はだれでも来る事が出来る所ですので、まだ来ていない仲間も一緒に来たいと思います。

★NO2 (6月5日～10日まで)

今年2回目のいろりん村(田植え) 4名参加

6/5(月) 高田馬場出発9:00 到着14:00

部屋(いろりん小屋)のそうじ等、地元の農家さんと打ち合わせ、1時間ぐらい。

畑の野菜作りと共に、小さな田んぼをやらせてもらう事を提案。承認される。早速作業の打ち合わせ。

6/6(火) 9:00から12:00 3名で田おこし

1名は9:00から11:30草刈り

12:00～13:00昼休み

みんな初めてで、泥んこに足を取られながらやりました。

思った以上に力仕事だったので、午前の続きを4名総がかりでやりました。

6/7(水) 9:00-11:30 代掻きと取りのぞいた根っこの運び出し作業

12:00-13:00 昼休み

午後 根っこの運びと田んぼのならし作業、野菜の植え付け作業

6/8(木) 9:00-12:00根っこ運び、草刈り、キャラブキ取り

12:00-13:00 昼休み

午後からキャラブキ洗い、キャラブキの佃煮作り(おにぎりの具用)



6/9(金) 田植え本番

7:00-8:00 稲取り3人、ライン引き1名

8:00-10:00 田植え終了後畑の手入れや、ゆっくり周辺散歩。

午後トイレの移設後は田んぼの水入れチェック。14:00からNさんの新しい家に行きチェック。

6/10(土) 草刈りと畑の手入れ、部屋の掃除等。

11時にいろりん村出発

今回は自分以外は田植えの始めからの作業を初体験。田んぼの起こしは大変だったけど、3人から出た言葉は「稲刈りでどのくらいの米が出来るか今から楽しみ!」と言っていました。それを聞いてとても安心しました。

花見 から 夏まつり

4月1日、新宿中央公園にて「花見の会」を開催しました。コロナも「5類」に変わるとのことで、今年は新宿中央公園は一般の方も含めて「花見」は大賑わい。その中で一風変わった、仲間の「花見」がこれまた恒例ではありますが、100名程の仲間が集まり、手作りの「麻婆丼」を食べたり、各種お酒類を手にしたたり、皆でわいわい言いながら、並んだり、輪になったり、厳しい冬を乗り越え、ようやく春になったことの喜びを分かち合いました。

何かを訴えるでもなく、立派な挨拶があるわけでもなく、自然と皆が集まり、それがいかにも当たり前のように皆で作業しながら談笑する。理想とする会合です。

この雰囲気でも今年も8月のお盆の行事「夏まつり」を予定しています。自然と坊さんが来てくれてお経を読み、自然と皆で焼香して今は亡き仲間を追悼し、飯食って、酒飲んで。暑い暑いと文句を言って。

こんな形のものが定番になって、そこにゆるやかな、なんとなくの団結が生み出されれば本望である。



新宿連絡会 会計報告

昨年度はこれまでにないくらい、多くの寄付を頂きました。おかげさまで年間通して安定した活動が出来、また、懸案でもあった農業支援分野で「仲間の仕事作り」と言う連絡会の原点でもある活動も規模を大きくして実施できました。「もらうばかりでなく、自分たちも働き、恩返し」こう言う仲間の意気込みの活動を極力応援して行きたいと思っています。

衣類、お米、物資なども倉庫がいっぱいになる程頂きました。順番に活用しています。事務所も、おにぎり作り、衣類整理、シャワーサービス、各種作業とほぼ年中無休で活用しています。

連絡会は頂いたものをすべて仲間に提供しています。それが気風となっております。引き続きのご支援、宜しくお願い致します。



2022年度 新宿連絡会収支報告

勘定科目	金額	勘定科目	金額
1 計上収入の部		2 管理費	
1 寄付金収入	4,506,259	旅費交通費	94,680
		通信費	309,755
計上収入合計	4,506,259	消耗品費	101,599
		事務用品費	153,757
II 計上支出の部		事務所費分担金	360,000
		衛生管理費	5,503
1 事業費		支払手数料	143,993
		車両費	242,794
おにぎり/炊出し事業	409,035		
巡回活動費	592,427	計上支出合計	4,584,089
農業支援事業費	458,373	計上収支差額	△77,830
その他活動事業費	524,139	前期収支差額	317,545
越年越冬事業費	961,719	次期繰越金	239,715
夏祭り事業費	226,315		

2023年度 4月～6月新宿連絡会収支報告

勘定科目	金額	勘定科目	金額
1 計上収入の部		2 管理費	
1 寄付金収入	952,200	旅費交通費	42,120
		通信費	2,350
計上収入合計	952,200	消耗品費	15,829
		事務用品費	56,299
II 計上支出の部		事務所費分担金	90,000
		衛生管理費	0
1 事業費		支払手数料	11,956
		車両費	17,100
おにぎり/炊出し事業	138,955	修繕費	0
巡回活動費	163,404	計上支出合計	1,147,343
農業支援事業費	393,467	計上収支差額	△195,143
その他活動事業費	215,863	前期収支差額	239,715
		次期繰越金	44,572

●活動カンパ 振込は 郵便振替口座00160-6-190947「新宿連絡会」まで。

●郵便物、物資カンパの送付先は以下の住所にお願いします

〒169-0075 東京都新宿区高田馬場2-6-10関ビル106号 新宿連絡会 宛てでお願いします。